

ご使用に際して、この説明書を必ず読んで下さい。
また、必要な時に読めるよう本剤とともに保管して下さい。

東洋漢方の小青龍湯

(しょうせいりゅうとう)

第2類医薬品

本剤は、漢方の古典「傷寒論」「金匱要略」に記載されている小青竜湯に準拠して製造された煎薬用の紙パック剤です。

⚠ 使用上の注意



相談すること

- 次の人は服用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること
 - (1)医師の治療を受けている人。
 - (2)妊婦又は妊娠していると思われる人。
 - (3)体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）。
 - (4)胃腸の弱い人。
 - (5)発汗傾向の著しい人。
 - (6)高齢者。
 - (7)今までに薬などにより発疹・発赤、かゆみ等を起こしたことがある人。
 - (8)次の症状のある人。：むくみ、排尿困難
 - (9)次の診断を受けた人。：高血圧、心臓病、腎臓病、甲状腺機能障害
- 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ
消 化 器	吐き気、食欲不振、胃部不快感

まれに下記の重篤な症状が起こることがある。その場合は直ちに医師の診療を受けること。

症状の名称	症 状
間 質 性 肺 炎	階段を上ったり、少し無理をしたりすると息切れがする。息苦しくなる、空せき、発熱等がみられ、これらが急にあらわれたり、持続したりする。
偽アルドステロン症、ミオパチー	手足のだるさ、しびれ、つっぱり感やこわばりに加えて、脱力感、筋肉痛があらわれ、徐々に強くなる。
肝 機 能 障 害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸（皮膚や白目が黄色くなる）、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。

- 1カ月位（鼻水、うすい水様の痰を伴う咳）に服用する場合には5～6日間服用しても症状がよくなる場合は服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること
- 長期運用する場合には、医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

【効能・効果】

気管支炎、気管支ぜんそく、鼻水、うすい水様の痰を伴う咳、鼻炎

【用法・用量】

大人（15才以上）は1包（1日量）につき水400mLの水をもって煮て200mLに煮つめ、滓をこして取り去り、食前に服用して下さい。小人（15才未満2才以上）は同様に煎じ、下記の量を服用して下さい。

年 齢	1包(1日量)煎じ液	1日服用回数	年 齢	1包(1日量)煎じ液	1日服用回数
大人(15才以上)	全 量	3回に分けて	7才未満4才以上	1/2量	3回に分けて
15才未満7才以上	2/3量		4才未満2才以上	1/3量	
			2才未満	服用しないこと	

〈用法・用量に関連する注意〉

- 小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させること。
- 用法・用量を厳守すること。

【成分・分量】 [本品1包（1日量）18.0g中]

日本薬局方 マ オ ウ……………2.0g	日本薬局方 ケ イ ヒ……………2.0g
日本薬局方 シ ャ ク ヤ ク……………2.0g	日本薬局方 サ イ シ ……2.0g
日本薬局方 シ ョ ウ キ ョ ウ……………2.0g	日本薬局方 ゴ ミ シ……………3.0g
日本薬局方 カ ン ソ ウ……………2.0g	日本薬局方 ハ ン ゲ……………3.0g

保管及び取扱い上の注意

- 直射日光をさけ、なるべく湿気の少ない涼しい所に保管すること。
- 小児の手のとどかない所に保管すること。
- 誤用をさけ、品質を保持するため、他の容器に入れかえないこと。
- 煎じ薬は腐敗しやすいので、冷蔵所又は冷蔵庫等に保管し、服用時に再加熱して服用すること。



【問い合わせ先】

本製品についてのお問合せは、お買い求めのお店、または下記にお願ひ申し上げます。
 東洋漢方製薬株式会社「お客様相談室」
 電話 0120-00-1040
 受付時間 9：00～17：00（土、日、祝日を除く）

副作用被害救済制度の問合せ先
 （独）医薬品医療機器総合機構
 電話 0120-149-931